

# ソーラン節も一役



稚内南中で映画化に取り組む生徒たちと斎藤耕一監督。安達祐実さんの姿も見える



北海道稚内市で、『日本一荒れているともいわれる中学校』があった。六年前から民謡のソーラン節を取り入れた踊りで校内暴力を克服し、その物語が今、学校やPTAの全面協力で映画化されている。関係者は「この映画が少しでも荒れる学校の問題を考えるきっかけになれば」と願っている。

タイトルは「父ちゃんの海—ソーラン節の歌が聞こえる」(仮題)。「旅の重さ」「建軒じょんがら節」などで知られる斎藤耕一監督(69)が手掛けている。モデルとなつたのは稚内市立南中学校。一九八〇年代、授業中でも生徒が平気でたばこを吸つたり、傷害、恐喝事件が多発、教師への暴力も絶えなかつた。

しかし、教諭やPTA、地元の人たちの熱心な取り組みで次第に暴力を克服していくが、大きな力になつたのは、民謡歌手伊藤多喜雄さん(47)の歌うソーラン節に合わせた踊り「南中ソーラン節」だつた。

同校にはもともと郷土芸能部という課外クラブがあつたが、生徒たちは普通の民謡には全く興味を示さなかつた。ある時、指導教諭の一人がロックのように激

しいリズムの伊藤さんの歌を知り、生徒たちに聞かせたところ、「すゞくカッコイイ」と興味を示し、プロの振付師を招いて、躍動的な踊りを取り組むようになり、九三年には全国民謡民

## 父親参加、生徒動かす

### 稚内南中 地域ぐるみで

「斎藤監督が、ソーラン節の側面だけではなく、全体的な教育活動というものをきちんと評価していらっしゃるので安心して協力することになった」。映画は四月末に完成、五月に地元・稚内市で市内の全中学生と親たちを招いて披露試写会をする。全国公開は今年秋の予定。



ついに 全国紙『一面トップ』に掲載される!  
本映画のテーマの持つ社会的意義を「全国民が知るべき最重要情報の一つだ」と、わが国最大の活字メディアが判断してくれました。何と嬉しい、映画『父ちゃんの海』への支援・激励の社会現象でしょうか。

# 荒れた中学再生、映画に

舞大賞でグラントップを獲得するまでになった。

友人の伊藤さんから

話で聞いた斎藤監督は「ぜひ映画化」と稚内市を訪ね、自治体や学校、PTAに協力を要請した。映画は実話を中心に、子供たちと一緒に、教諭たちが学校改革に取り組む姿をドラマチックに描く。教諭役で渡瀬恒彦さん、校長役に田村高広さん、生徒役で安達祐実さんが出演している。